

神戸学院大学教授

上脇 博之さん（65歳）
かみわき ひろし

すごい壊れっぷりである。自民党派閥の政治資金パーティーの問題。法律をつくった張本人が法律を守らない。どう見ても組織ぐるみの「犯行」なのに会計責任者の個人的責任で処理される。キックバックしたおカネ

公権力の暴走を止める



フロントランナー

Front Runner

トレードマークのバンダナは大学浪人の頃から。法廷でも外さなかった。「職員は注意したけど、裁判官はまあいいじゃないですかって」=神戸学院大学・ポートアイランドキャンパス

の使途は不明のまま、「派閥の解散」である。事件の発端は2022年11月の「しんぶん赤旗日曜版」のスクープだった。その報道をもとに政治資金収支報告書をこつこつ調べ直し、東京地検に刑事告訴を

査のきっかけをつくった。政治とカネの問題を追及する第一人者。最初の告発は00年、新進党が分党したら党的政党助成金の受給問題だった。01年に自民党本部の組織活動費名目の使途不明金の問題も告発した。「正確に覚えていないが、過去100件以上は告発してきた」と話す。

自民党・蘭浦健太郎前衆院議員

の闘争は、特捜部から連絡があった。その際、「先生の告発には別件もあるから」と言われた。「いつもは連絡なんてしない。蘭浦前議員の次は、告発していた派閥の資金パーティー問題をやるぞ」と伝えたかったのかかもしれない」

大学では憲法を教えている。鹿児島県出身。本人いわく「不良学生」だった。3年間浪人して入った大学では、勉強そっちのけで酒を飲み、マージャンを打った。

入学したのは法学部だったが、哲学の授業に熱中した。担当教授は「アンガーリュマン（社会参加）」を提唱したサトルの研究者。よく焼きそば屋に連れて行かれ、酒を飲みながら哲学論議を交わしたという。

一方、法律の勉強は苦手だった。専門書を読むと、どの学説がなぜ妥当なのか、迷った。友人は言った。「そんなに考える間に司法試験は無理。学者になつたら?」。2年間浪人して大学院へ。同じ敗戦国の西ドイツの憲法を研究する。

法律の専門家や研究者うど市民団体「政治資金セントラル」を設立した。安倍晋三元首相の後援会が主催した「桜を見る会」前日の夕食会や「森友学園」の問題などの刑事告発や提訴にも関わる。「憲法は公権力に歯止めをかける法。その研究者が政府や大臣、国会議員の暴走を止めるために運動するのは不自然なことではない」

「学者」と呼ばれることが嫌い、「研究者」という肩書にござる。「自分はまだ勉強が足りない。調べてもわからないうことが出てくる」。謙虚な姿勢が政治の病をあぶりだす。

文・大嶋辰男 写真・外山俊樹

「民意がゆがめられて国会がつくられている」

フロントランナー

Front Runner

(1面から続く)

プロフィル

★1958年、鹿児島県生まれ。電力会社勤務の父は転勤族で引っ越しを重ねた。中学校から途中転校を避け、母方の祖母と2人暮らしをする。

★県立加治木高校卒業、3浪して関西大学法学部に入学し、2浪して神戸大学大学院に進む。

★94年から北九州大学（現北九州市立大学）に勤務した=写真。



2004年から神戸学院大学大学院実務法学会研究科教授、15年から同大学法学部教授。

★00年に新進党から分党した6党が政党助成金を不正受給したとして、憲法学者ら17人の連名で東京地検に告発状を出す。以後、大阪の阪口徳雄弁護士の誘いを受け、政治とカネに関わる問題を告発していく。

★最新刊に「なぜ『政治とカネ』を告発し続けるのか」がある。一般読者向けに「政党助成金、まだ続けますか？」などブックレットも多数出版している。

★家族は同じ年の妻、子どもは1男。

このやさしさが怒りの源泉なのだろうか。「このまま終わらせてはいけない」と語る=神戸学院大学・ポートアイランドキャンパス



——「哲学青年」だった。大学浪人の頃、友人からリボートの代筆を頼まれて作家・椎名麟三の「生きる意味」を読みました。興味を持つと熱中するタイプなので椎名さんの本を読みあさり、そこからキリスト教やマルクス主義の本を読むようになつた。いまから思うと、そのあたりから哲学に興味があつたようです。

——でも、憲法の研究者になりました。法哲学の勉強は面白かった。「正義論」をもっと勉強したいと思ったが、正義論という学問は抽象的。本を読んだだけで、自分が本当に理解できているのか不安だった。そのことを教授に相談すると、「法解釈において正義はどう表現されるのかといふ点に着目したらどうか」と言わ。憲法に「方針転換」した。大学院では西ドイツの政党

家ではもっぱらノンアルコールビールです。飲むと、連れ合った左目も病氣で視力が低下し、資料を読むのもきつい。仲間も引退しています。がんばれ——最後に。お酒はいまく

——検察が本気で注視するところがどうか注視していたが、トカゲのシップ切りで終わらせた印象です。裏金づくりは会計責任者の独断ではできない。派閥の幹部が主導したはずなのに不起訴にするのは、巨悪を眠らせることがある。茂木派と岸田派の裏金のブルー、二階派の裏金のブルーとキックバックについてはすでに告発した。安倍派の裏金のブルーとキックバックはこれから。大勢の議員らを順次告発していきます。

——「哲学青年」だった。大学浪人の頃、友人からリボートの代筆を頼まれて作家・椎名麟三の「生きる意味」を読みました。興味を持つと熱中するタイプなので椎名さんの本を読みあさり、そこからキリスト教やマルクス主義の本を読むようになつた。いまから思うと、そのあたりから哲学に興味があつたようです。

——でも、憲法の研究者になりました。法哲学の勉強は面白かった。「正義論」をもっと勉強したいと思ったが、正義論という学問は抽象的。本を読んだだけで、自分が本当に理解できているのか不安だった。そのことを教授に相談すると、「法解釈において正義はどう表現されるのかといふ点に着目したらどうか」と言わ。憲法に「方針転換」した。大学院では西ドイツの政党

——昨年は正月休みを返上して告発状を書きました。自民党的5派閥の政治団体の政治資金収支報告書を一つ一つ見ながら、お金の出入りをチェックするので膨大な作業になります。自民党東京都連（秋生田光一會長）も派閥と同じように政治資金パーティー収入の明細を不記載していたことがわかり、今年の正月休みも返上になりました。

——政治資金収支報告書をネットで公表している選管が大半だが、情報公開請求しないと見られない選管もある。建前では国民が監視できるようになつていが実情は困難だと言えます。しかも報告書の保存・公開も3年だけです。

——きつかけは赤旗でした。編集部からコメントを求められた。話を聞いて「これは重大な指摘だ」と。ほとんどの告発のきつかけは新聞や週刊誌の報道。コメント取材で問題を知り、公開情報や資料を調べ直し告発状を書く。メディアの役割は重要です。

——政治資金収支報告書の調査は煩雑です。まずその政治家が持っている政治団体や政党支部を把握する必要がありますが、その政治家が代表になっている場合もあれば、名前は出ていても事実上代表者の場合もある。さらにその政治団体や支部が総務大臣に届け出している場合と、各都道府県の選挙管理委員会に届け出している場合があるので調べないと

——政治資金収支報告書の調査は、長い間の政治家個人のパーティではなく、自民党的主要派閥が長期間にわたり同じような手口で不記載にしていました。悪質です。裏金をつくっている可能性が高いと指摘したので、検察が

——問題がここまで大きくなると思いましたか。——「議会制民主主義の確立」を唱えています。

——1994年の「政治改革」でではなく、自民党的主要派閥が長期間にわたり同じような手口で不記載していました。悪質ではない。前回の総選挙で自民党は得票数と議席数が比例していない。小選挙区で5割未満、比例区では3割台の得票率で「絶対安定多数」を確保した。

——つまり、大政党には得票数以上の過剰な議席数を与え、中小政党には過少な議席数を与える最悪の選挙制度になつていています。民意がゆがめられて国会がつくられているのです。これでは議会制民主主義ではない。だから権力は簡単に暴走してきた。無所属の人も立候補できる完全比例代表制を導入するべきです。

——「議会制民主主義の確立」を唱えています。制度や選挙制度、政治資金制度も研究しました。